



13
4436
10

113
4436
10

邑部成
貞
身村馬太

経車古鏡清卷之十

目錄

- 小枝佐後与 徳合 小初与 佐
佐後与 徳合 浩の 才 派 智 自
- 徳合 敏の 流 王 智 八 支 与 佐
大月 謀 派 改 尾 才 甚 凡 國
- 其二
- 大月 射 派 生 了 く 國 停 結
小枝 佐 後 与 改 尾 派 捕 与 國

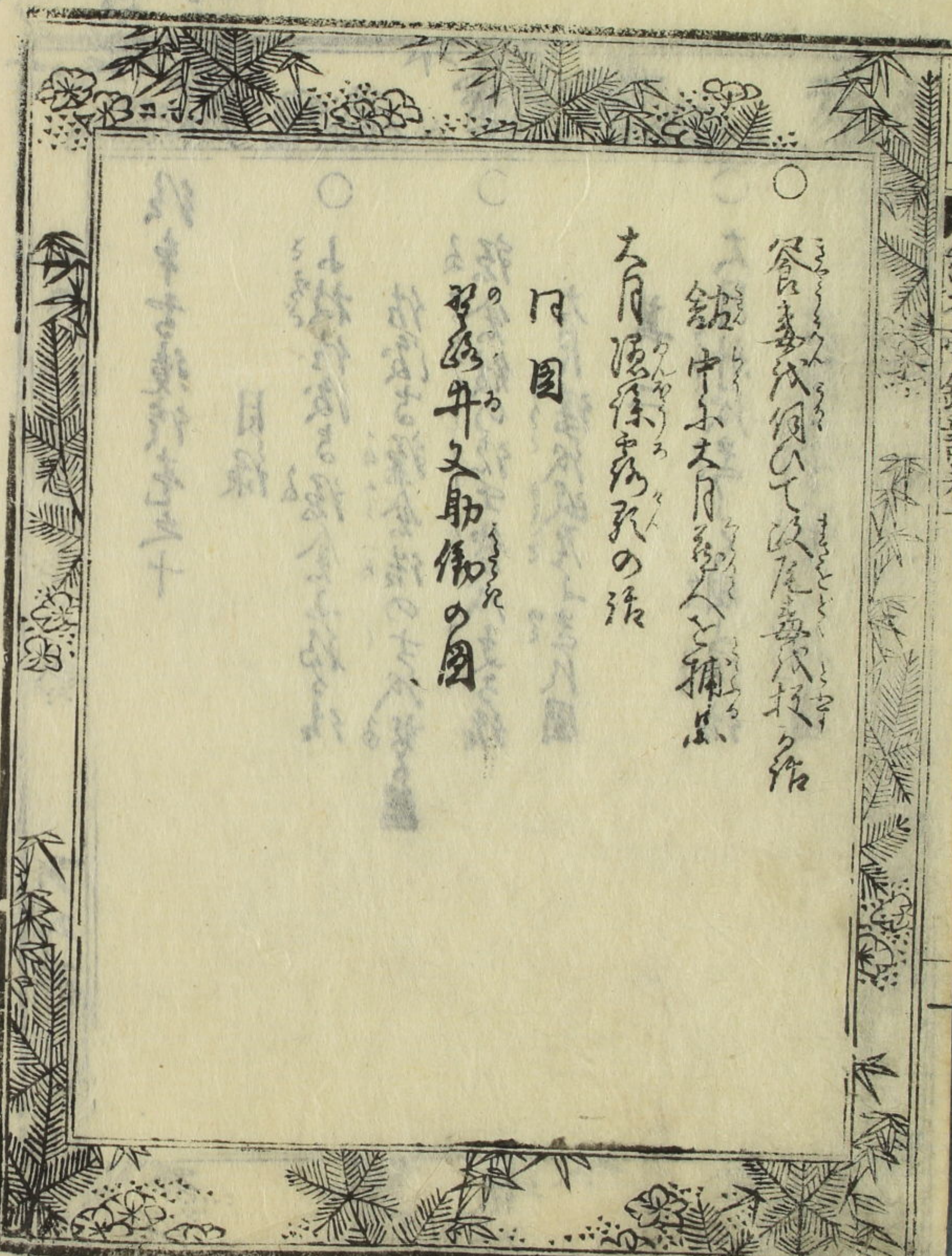
會不...

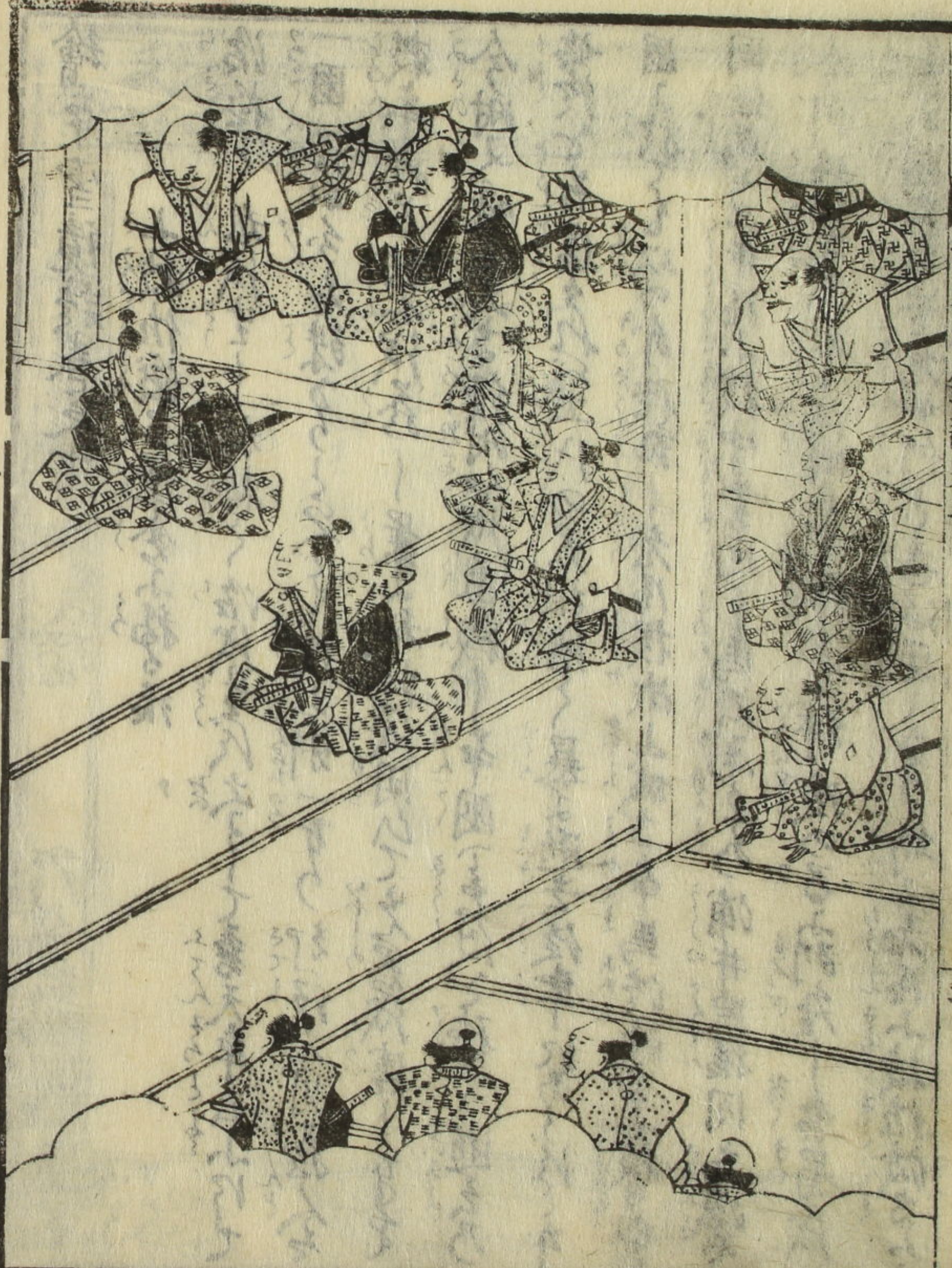
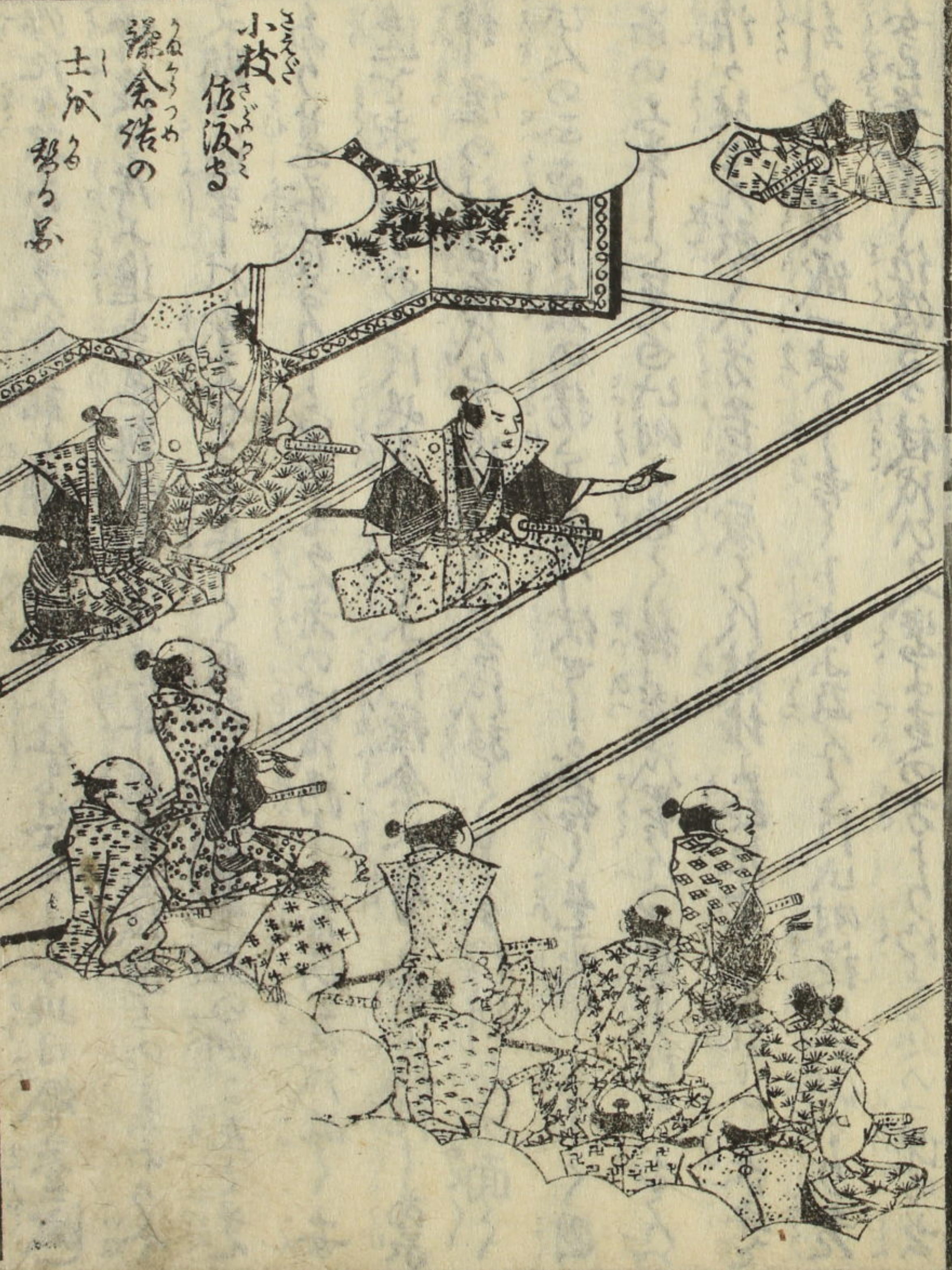


繪本雪鏡談卷之十

小枝依波書豫念ふ物語

治極く乱代生じし乱極く治代生じたりて善天年去小枝にて
 一團一家分を殊りたりとも理を別一なり却後六月孫令
 叔年此の初め代為し一輩秘討代用ひて先皇代害しなきを
 今時又噂ふ大寺終時代代毒殺し一幸團一も付と種く遊云乃
 始終と告送るれど二代の君相續く暴に逝去後車にありはと本
 團よ於ても以の外強動し老后横濱山城を幸馬治治書小枝日向
 同位馬也幸居小枝中書同馬を尾まの浦井曲後同左源を
 今川此母等の人々同州も少威して評後のもふ列登し老眉代
 衆め團家の安老如何とも縁運く有り初より老后小枝依波書





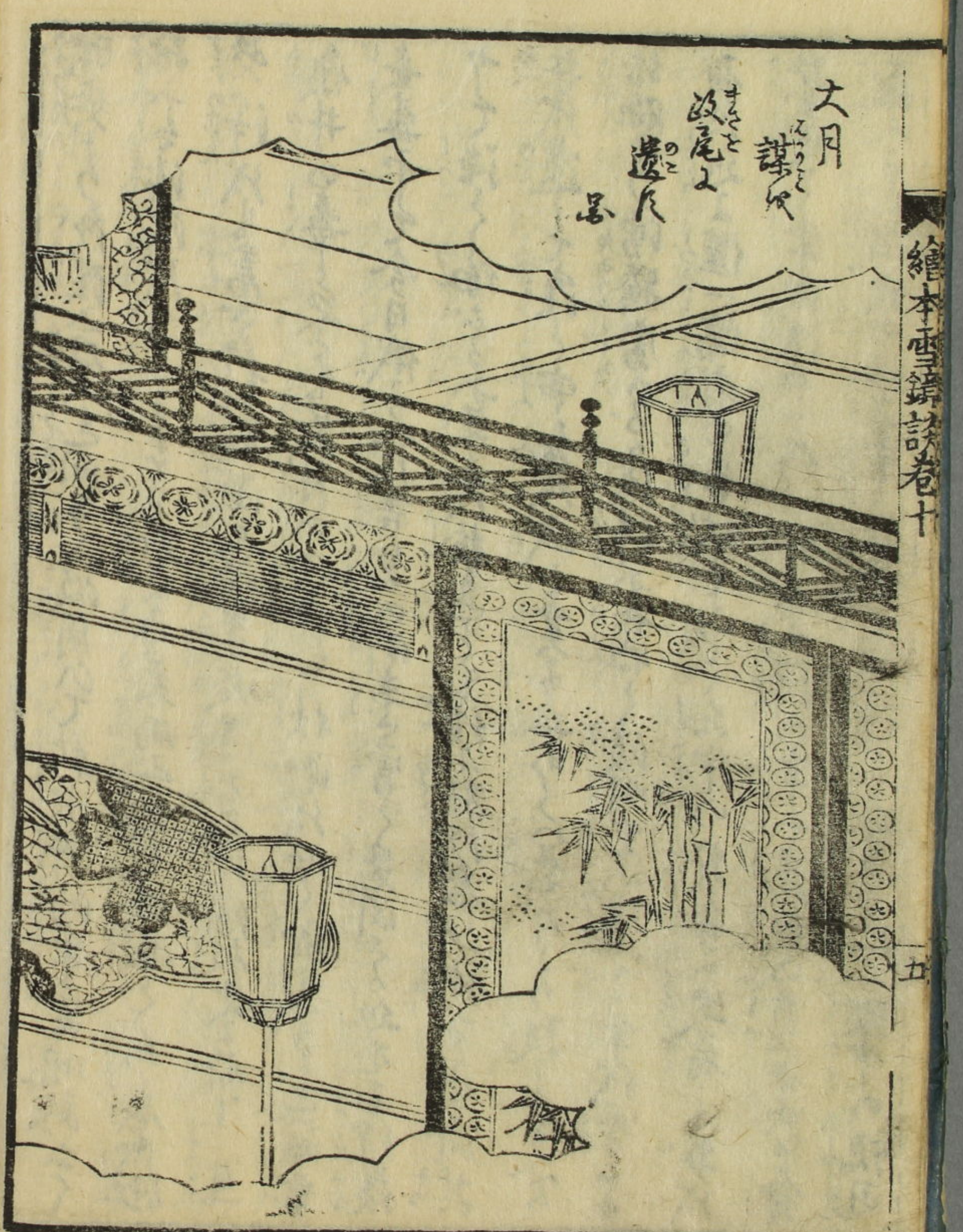
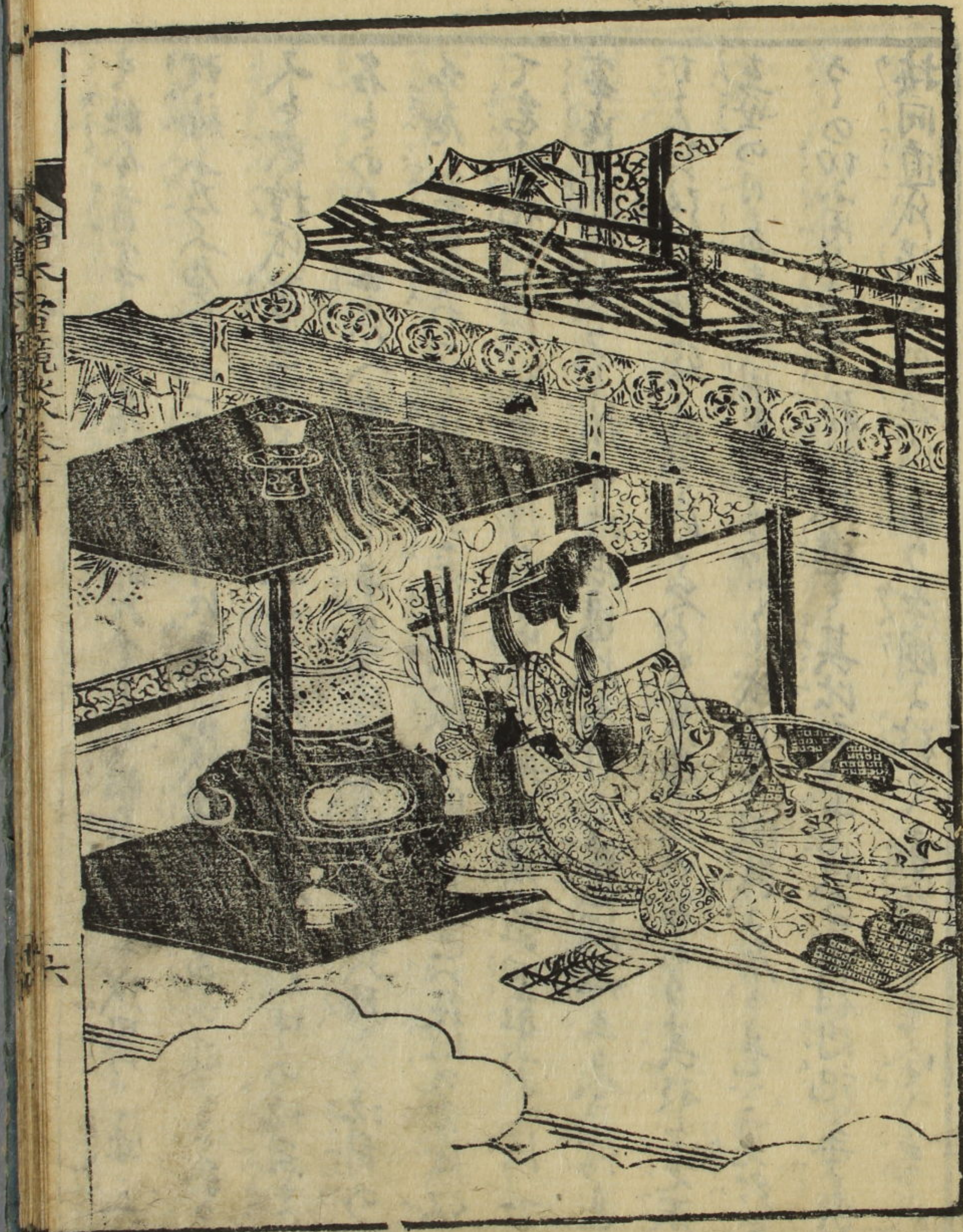
源氏をあり久病氣と稱して久く出仕もせざりしが此月俄に登城
評後之序に進出某勲事なる先年能く毒成進するの憂あり今
又斯る遠事れも来ざるを正しく固き代何し事君の例よと之
あり某君肯りしと之をも之者の法成所し一身の病成り安
逸を求む所ありは此友を君も代鎌倉に赴く事成れり
神澄の針置成りてはと之を移りゆくを其列座の面々
い人の正室背負の傍より帰伏せしを君も是れ同し正しく固
家の大事と受るは耐は高く神澄成りて是れ下は
誰う能せん然くは芳若成りては彼地は赴けり事とこれと来事と
針置と最儀一決し者下城も及んばは耐は口の例より老
女も並出く佐渡より杖杖い久き事よまの方よりゆくる如の一塊の云

代出よ、何中し人自れ多共佐渡書打り多れ彼焼跡りの成儀
ありて是れ歩らるる教助く佐渡書を浦井典信石尾重水幸同家
等共々往同拜禮し洗とせし鎌倉へ赴くは是れ是れ
夜日向書と密に事代洞し令せて有月して鎌倉より
對馬と佐渡は小堀し汝も車馬の宰后机率に令して此云の
始終成詳し不固礼し整封定ふの後事成終とてし教て異
論成りては六月も病不安徳の石の云とてし
鎌倉敏乃は司其成りては
翌年應安之年二月是利家の命より對馬と佐渡を征く二國
の大臣に補せし其給教は旧例の如くは佐渡は征くは式禮成
先例の通首尾成終も其鎌倉本國兩所は征くは式禮成

會本實覽卷十一

用いたる處に於て、祝言法述此時既二月初旬是に於て小枝佐渡
 寺評議、於て彼中の徳司法要く、瘰癧を治す大廣回小居のあり
 如何なる事ぞと、望ば法ので、於り時、佐渡寺と、困るる代は、
 衆を捕んで、座代占一産代看く、視と、中々、去去年十一月二日の
 大夏、今に於て、毒代用ひる者の、分明さるる、早是、法司、梅岡
 法を、代用ひる、此、深く、一、産、且、岩井、基三郎、井中、に、毒、殺し
 あるの、例、法、若、如、古、未、其、終、驗、され、わ、た、く、そ、も、此、さ、び、の、愛
 事、子、を、殺、せ、凡、古、井、は、毒、の、瘰、癧、を、く、つ、子、を、殺、半、度、く、汲、引、次
 る、さ、が、た、く、殺、ふ、地、中、を、含、着、る、陰、濕、の、氣、水、極、は、は、く、種、殺、む、如、
 ち、や、て、終、は、瘰、癧、毒、代、殺、生、と、り、南、越、危、厨、の、井、に、如、れ、と、懸、釜
 たる、時、ら、今、に、さ、る、の、星、霜、反、殺、へ、古、井、と、唱、を、た、ら、る、の、ち、も、そ、も

既、變、り、り、祝、言、法、述、此、時、既、二、月、初、旬、是、に、於、て、小、枝、佐、渡、
 寺、評、議、於、て、彼、中、の、徳、司、法、要、く、瘰、癧、を、治、す、大、廣、回、小、居、の、あり、
 如、何、な、る、事、ぞ、と、望、ば、法、の、で、於、り、時、佐、渡、寺、と、困、る、る、代、は、
 衆、を、捕、んで、座、代、占、一、産、代、看、く、視、と、中、々、去、去、年、十、一、月、二、日、の、
 大、夏、今、に、於、て、毒、代、用、ひ、る、者、の、明、明、さ、る、る、早、是、法、司、梅、岡、
 法、を、代、用、ひ、る、此、深、く、一、産、且、岩、井、基、三、郎、井、中、に、毒、殺、し、
 ある、の、例、法、若、如、古、未、其、終、驗、され、わ、た、く、そ、も、此、さ、び、の、愛、
 事、子、を、殺、せ、凡、古、井、は、毒、の、瘰、癧、を、く、つ、子、を、殺、半、度、く、汲、引、次、
 る、さ、が、た、く、殺、ふ、地、中、を、含、着、る、陰、濕、の、氣、水、極、は、は、く、種、殺、む、如、
 ち、や、て、終、は、瘰、癧、毒、代、殺、生、と、り、南、越、危、厨、の、井、に、如、れ、と、懸、釜、
 たる、時、ら、今、に、さ、る、の、星、霜、反、殺、へ、古、井、と、唱、を、た、ら、る、の、ち、も、そ、も、
 既、變、り、り、祝、言、法、述、此、時、既、二、月、初、旬、是、に、於、て、小、枝、佐、渡、
 寺、評、議、於、て、彼、中、の、徳、司、法、要、く、瘰、癧、を、治、す、大、廣、回、小、居、の、あり、
 如、何、な、る、事、ぞ、と、望、ば、法、の、で、於、り、時、佐、渡、寺、と、困、る、る、代、は、
 衆、を、捕、んで、座、代、占、一、産、代、看、く、視、と、中、々、去、去、年、十、一、月、二、日、の、
 大、夏、今、に、於、て、毒、代、用、ひ、る、者、の、明、明、さ、る、る、早、是、法、司、梅、岡、
 法、を、代、用、ひ、る、此、深、く、一、産、且、岩、井、基、三、郎、井、中、に、毒、殺、し、
 ある、の、例、法、若、如、古、未、其、終、驗、され、わ、た、く、そ、も、此、さ、び、の、愛、
 事、子、を、殺、せ、凡、古、井、は、毒、の、瘰、癧、を、く、つ、子、を、殺、半、度、く、汲、引、次、
 る、さ、が、た、く、殺、ふ、地、中、を、含、着、る、陰、濕、の、氣、水、極、は、は、く、種、殺、む、如、
 ち、や、て、終、は、瘰、癧、毒、代、殺、生、と、り、南、越、危、厨、の、井、に、如、れ、と、懸、釜、
 たる、時、ら、今、に、さ、る、の、星、霜、反、殺、へ、古、井、と、唱、を、た、ら、る、の、ち、も、そ、も、



大月
謀
改尾
遺
忌

繪本雪鏡談卷十

しかば首首事ある者人か斗暗たてとも國家の事成思つて
 我福ふ及ぶるは一人の指揮に事のみ民體の及ぶる
 入を感控代馬と憚るは二途に直ぐめりたる府を敵中の信司
 名々のりて事の人を事同ト是等の儀と論じれば如く信司の
 多感不慮知ありし能くか若代忠顧の面くは且て疑知の事成以
 て多ふ罪成同は縁更文月氏々先君の被推代馬同事ありて
 事成の列ふ如くは指揮は忠恩代馬都一此を成なるべき事と
 しかば強く控代馬及ぶるは且とも是ありて一の罪あり其殺々先君
 此世の月毒事成用ありたるは且下級賤は居る是と見ん事
 うの切ふ用く遊く縁成進も其比は且て成事成村内記事あり
 按同道成得ざるの罪成あり事國は終く事成せしめしは且下れ

云と事なりとも國及ぶるは且其身按同の職は且んて入殿と
 事成は偏小儒者の僻論は且せく居着ありたる人の犯と事成が
 不ゆとありて自其類小働の罪成と事成ありとむは信成事成有る
 とる人も國者の貞水加ら成は且衆伴の上知事と事成の任成事成
 居被信司の忠恩と事成用く是下一人は限ら成は且上操念の清
 士と年限と事成は一統小入事國者共目體も適と事成の成採ひは知
 事成と事成同者も事成引はひ事國は終く後と事成事成事成
 且とて成事成滴と事成と事成は且事成府の諸目登り長教と事成
 事成者も事成事成令々事成事成以事成事成と事成事成事成事成
 の事成人も事成事成用く肝成と刺と事成如く面成と事成汗一身は事成
 と事成事成事成の男成と事成其事成も且事成事成の事成事成事成事成一



細雪集卷一



二具

細雪集卷一

白の相よりを世交の交率平く毒薬の新高きんと推察を
仕ども其日所後個進は其の捨そくまで死にねたれ同
の傳ふき知れぬと退ひく思ふはとせんとて一敷りて
きく教公のほよ按同と加ふる耐とを罷めて突獄公
多く血を搦物死自卒く日度の世女司ゆふめんたのわ切
主法自の耐ふあく多結代拓く味さるべくと名堂并さる郎
中善状と幸に妙く半代後め衆公とねく後時く寧否代
るえの要えかやふ却く廉略の罷代あの上へ自思味め
て処置の空れと治さるべく和悔のふさく傳く作れさるひ
本國引退きいれず一後公の明者公よりて知若代ち後一國
粹造の基爪まのり愚に黙然代あるとも甚確して後生代

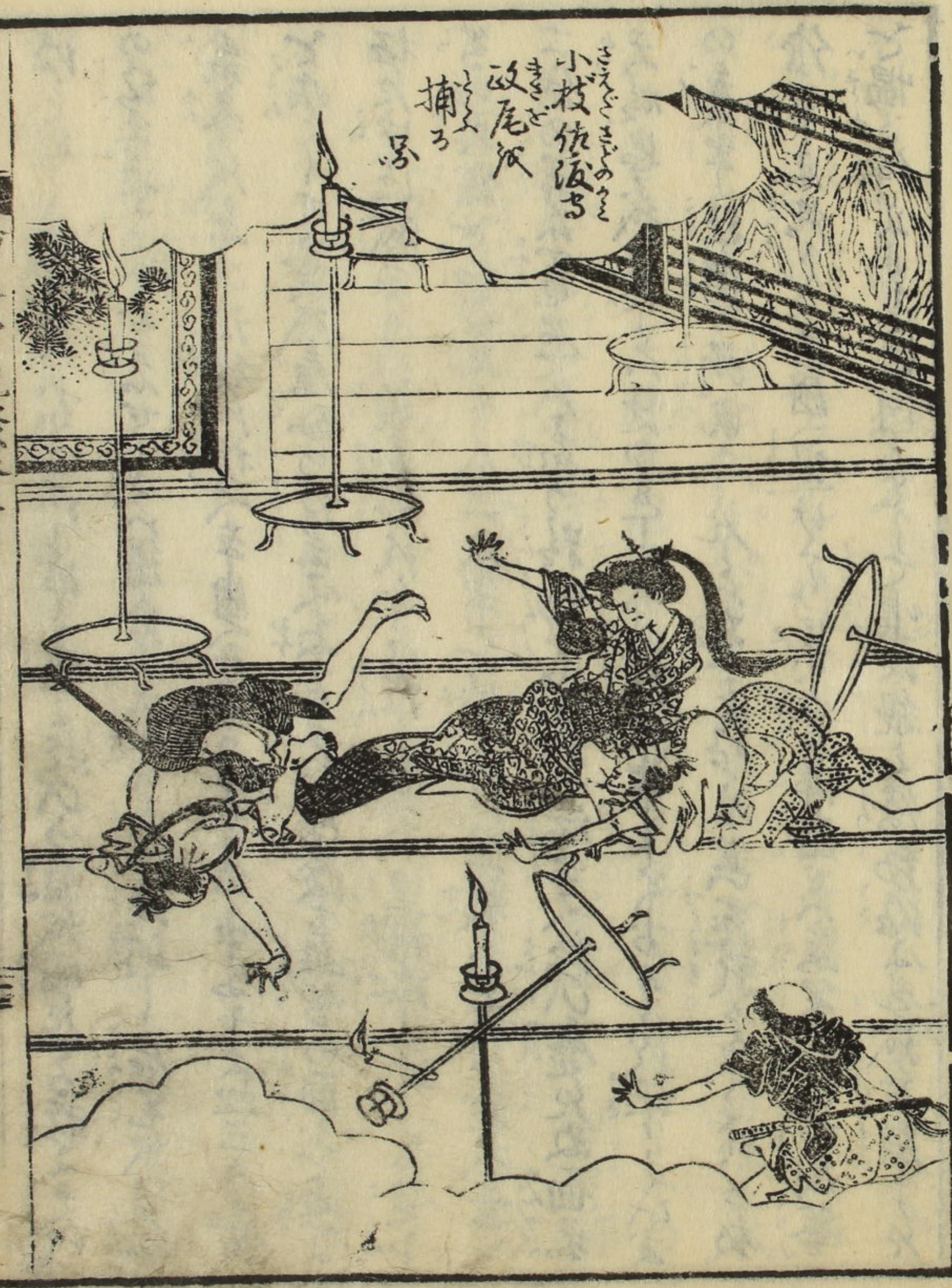
いつくと辨候代巧もふ速く一形状別をた思我のほと身とらぬ
ささども信候さるるも身すもをさるる其の代用く血さく世と
して過たりをふらうと列代の信司も忠くねく不忠さるくさ
慈懼の良代懐代者く居すに傳り俄に傳國の勢とぞる一さる

六月針代遺と國め傳ら活

ねも六月差人と始生豫念の信司と教く國め傳ら本國おはる如の士
波振く徳念よひせを在るる一両の信生引替といふ事案まり
一も六月も堂や一奸人等も一驚と驚ひも密中世らるる死
事にはれく本國一傳り彼母も狂く按同代加へるは後傳もあん
く安否代もさるる高保區さるし一獨り人少も強だん後傳

最應昭るるにてもいふ交の妻と其子とあるまじく
 宗族ありとも後と焼死して毒め飛込同んやと強く思ふ
 若くは是らふ知り川崎平太夫を良助を即齊進く法後
 置置まぬの望の如くさへ身かたに於て患ふかしくても
 渠此被ふるべく知事公も後一お黨は固く退去して後本の性
 多ふくは用るの期に於て貴人の御前を承ん人定おと笑
 夫夫一及志すべからん千村百村の娘もさへもす逢りて告
 の理あり其熱時勢と量見多ふ南君事と知事と目拾又某
 及び中守七の国門に於て若くは左の町に宝慶院及び
 生母業の方お母及の妻事以て退く暇も業の教もさへ
 より前進する如くともいふ用ひとして早く内とまり法後も生母の智

ありて又忠誠勇義の士に推ひましく母事公正一非常と戒後
 介と後我堂候令遣るるも事と用るの性も進退もに
 窮するの耐下り密に思つて法後我々と退自居被のさ後さ
 以て専ら法後我々と致すれは國門のよりよへ強く思ふ
 時は降んでい唯其不意も出く事と傳ふの介さすまの老女改尾
 と三三の生方さすい今度帰國の昔法後我々と等しく渠も出會
 寫紙封し毒込用ひ知事公害せん事公付書やり渠女さす
 の氣も能くわが致し些程も毒をぬく即時は法後とて法後其
 降紙包の底に毒をこぼして毒をぬかすに毒をぬかすに
 危しとがも毒をぬかすに毒をぬかすに毒をぬかすに
 既よ計策と遣し入貴人の法後我と鬼孫も何れをたす



此と致し我々及ぶ如くつらばく密に喉の骨が用たる改まて代
の生進くもあませしる豫念を立知の士を後列し居宅及に
家春公卒の徳材を推す幸國へてりる其中中も久松三郎
と略して忠義廉恥の徳を又ありしは後世の面と密に
板戸中に城ありハ類死に死に死る事千里相傳りてても
其の忠誠とあり同じ今一太事と附属其其故と六月元人
二代の君も電告に及り終動衆も起つて又後世の面を
天啓忠義の臣と見ゆ事とに秘に事どもありて正しくい
の度事社樂が所為とせんも其死に及りてても其故
外事も然く幸國へ退けり下等附國に其其計の面を
と愠る俸より後何事もして樂に親く信物に及りて
其其計の面を

幸向く一日向き告知するべしと表とて其其計の面を
おまきく樂が後を揮りてんを許人として其幸國へ立帰るは
後身も統中の新事以後宰相尾浦井と居忠吉の信生
其其計の面を改事として一洗し國治の老女を毎々密に其其計の面を
て老女改尾を名とす時り経時々の後世も其其計の面を
と退け内介遺策をかく教密に其其計の面を
後世も其其計の面を其其計の面を其其計の面を
老尾より下農民の事まで國家の礼節斯くして其其計の面を
常まざるありて其其計の面を其其計の面を其其計の面を
安五年對馬の信度と拾五葉も其其計の面を其其計の面を
事なく幸國豫念にも其其計の面を其其計の面を其其計の面を

御覽

廿二

見出したる所は夜討津津を獲りたるの小枝佐渡守に内意によりて
お殿様より密に彼曲者所始井又助が勢を以て被取申山崎
小幡連のて得て法盗の山崎上宿に被取申半と以て法盗茶
成申して進出申國上宿と以てお殿様告針次第合と申
以塞に入進し衆徒と奪して并刃成立し一坊の住持ありし
又その住持両取申支くお殿様よりお殿様より被取申坊くは上宿
那城の生所及び村流が功績の始末を以て合申し一過とて後山
新治乃拾まるとして願く申

賢良の何と政尾毒と被取活

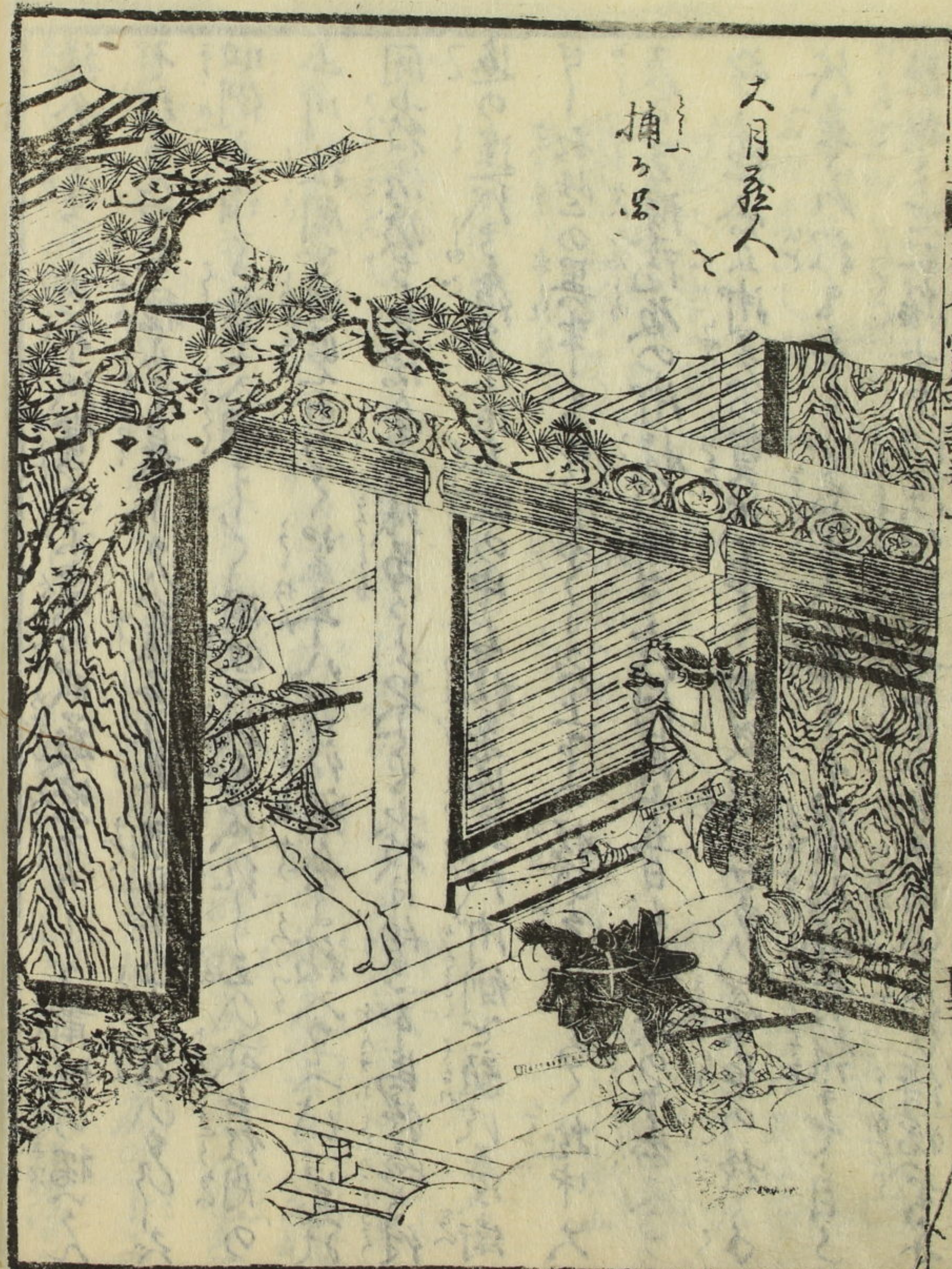
傳曰日替國以宗と申す事さし仁親以く宗と以て三洲の太守
多賀對馬守経渡々二代の先君相確く不側の福も逝去在し如難
の歳と以て其妻成徒々事覆板の戒を思ひ時物の罪易に成と
べ其危た事一縷の雲もをく千紘の煙れも毒が如く盤石の下よ
於く百卯の果も成と申すはくやうも國の貴戚の重長被取活

鎌倉ももく内が成黨り不虞の戒嚴密有りしう蒲嶋の福へん
ぞ起らんや安穂も生長しつひに安五年既み拾ふ才に及びもり
四例も循く初て入國しつゝ國政の法を以て成と成月
山川社周と巡覽ありつゝ翌年八月後鎌倉も拾入るへい一果れ
同被取活と稱念も成るつゝつゝも被取日句も本馬被取活
返の途成も獲て一室成の中も鎌倉を以て成代河側と稱に成衛
りお殿様の異事もつゝつゝつゝ上下の被取もつゝつゝ中
及て室成院及の河被取の糾さるは同月十五日を仲秋の中書と
被取鎌倉も河被取の賢良もつゝつゝ河被取被取もつゝつゝ
以成もつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
被取もつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ



繪本雪鏡卷十

十四



六月五
捕らる

繪本雪鏡卷十

十五

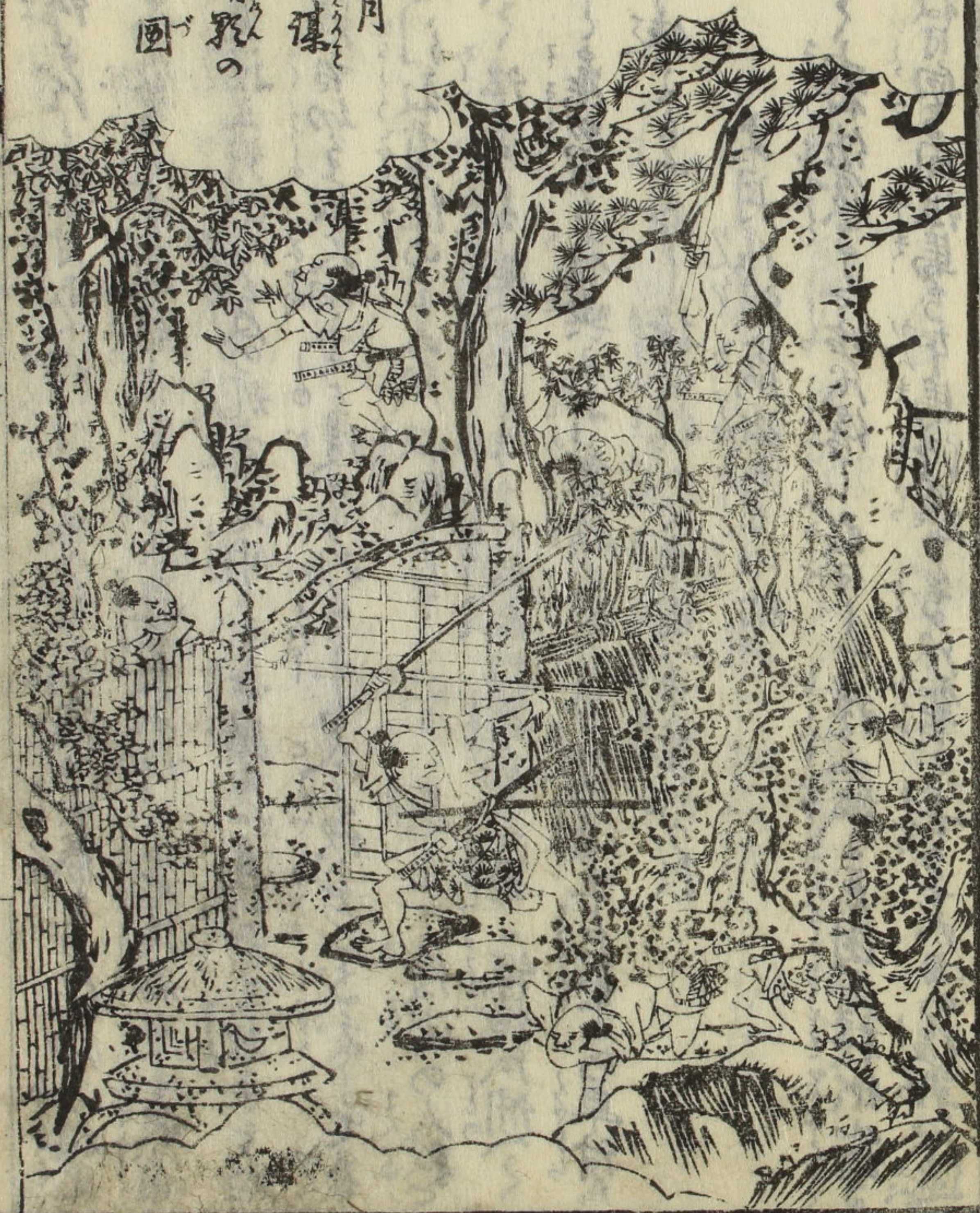
伊世姑と長女とを殺して殺別は殺しぬぬの附者女改尾を去る
寛安元年六月有人が帰國の折秘計は授けられ毒薬は用ひ
加害は害しむる事として強ひて其身を依後者が善徳として
高深院殿の附人となり殊に宝璽院殿業の方を善事には用
らるるに秘計其後代えは後月改色し今不令夜入る所の所
殿に控へて大守は飲食無事と社事を此の今宵を過すく如
と定め日の暮るる候に彼毒薬は懐し隠し齋中候ひて大守の
冲殿同道く忠告は法ふすく業房の形状は細い身をして大守
親近の女中書枝只一人を雇ひ居りしに驚くやうてその為
みやびは女中側の極例へ出られ身見定め時社待たれぬ密に因
ふ事等々高深院の毒薬は佛膝の湯の中は投じ人の見ゆる

成事のみやげまゝに己が局も帰入るる事と沖殿の極は女侍居る
候に不意の女有り耶と云の刻より大守寶璽院後自り業房め入
りしに自業は毒のハ毒子候ちりし女中松枝とられ毒味せし
候に是が松枝屋に下河の守付は社法業と執り一日二日春
よき身へて彼改尾が入道毒薬刻は湯唯は通るやいな忽喝と
叫ぶ事等々後高深院と同地より大守を尋ねられし人やはんと四直
望めらるる依後者候る事と云は事改尾出さる中松枝と士持八直
中候綱と業房の血は吐き其毒は死に候入る依後者は候
と云ふ事なりと云ふ圍門は佳針と云ふものありと云ふ事
者なりと云ふ後日大守を一人を尋ねし事細く書き候事
候事等々と云ふたてがうらたは二人柵と云ふ女中やうに松

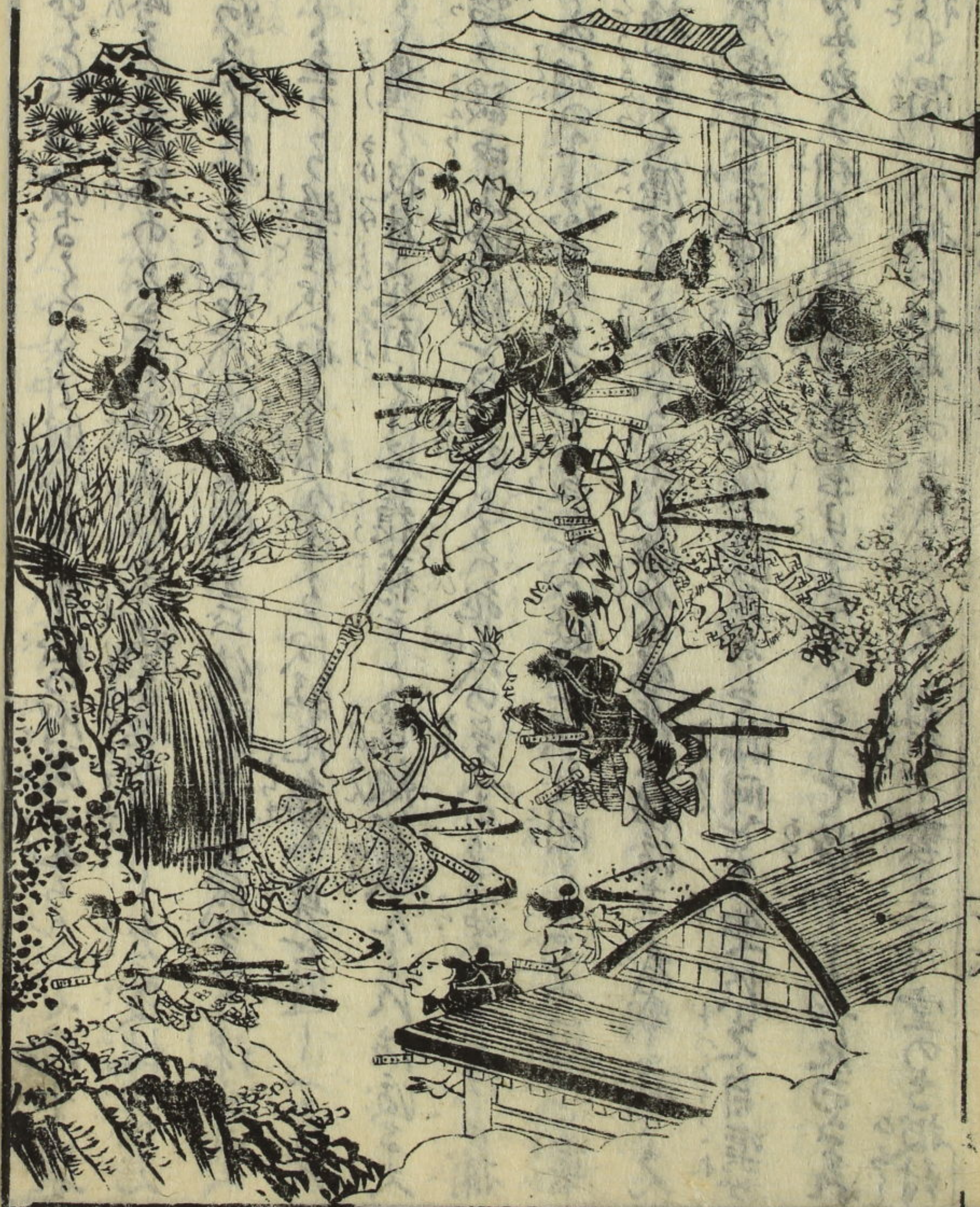
今日と漸酒の幸ひきより権別の方必死に扱はれ其氣も碎く
 堀りて宵の中は廊下に如く風吹入んとて下り知よま珠院様付
 の老女改尾及廊下はひみし御業房へまゝにせりありて思ひやうふ局も
 帰きしは身もさう其下に見えありたる事もはたてしはははははは
 と事なく改尾を改尾に如く必死に其者の正當なりんとて改尾
 と改尾とて聲を初めいふ改尾其時今度何等の故ありて窮ふ
 御業房へ下りまされしと改尾の中春如く我様成程やう又の事
 の終りとして驚き下りても生憎と後の方ねばも強ひ今度ま珠
 院様附の女中西三人局も見ひたさるを自然も申殿へまゝに改尾
 法也もあへんおぼしめ及極沖入の折柄は女中事しるて漸
 房へ向へし一人の女中中居る改尾ありて居られぬのもて別の事

といへば佐渡さうさうとて中佐の所敵へ来らんやと後すも
 出合なく無様あゝとて室より何人の状を以て不審し名及梅回し
 と何れか左と右にたれとて聞きしは佐渡さうさう改尾さうさう諸士四人
 はさうさう改尾取く伏し下り改尾忽ち身を避し一人は
 執りて重く投げ飛打くとて根蔭して懐紐と扱んとて佐渡さう
 小堀り説中懐紐と折柄とて飛殿の多々ありて改尾は捕
 やしの羽の下に士をさうさうとて改尾改尾に困るまふ白みと集
 死折室と縄状をさうさう改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾
 と改尾さうさう捕りて改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾
 局も改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾
 改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾
 改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾
 改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾改尾

六月
珠の
園



會の
見
水
巻



と作らば書付あり指披く身まは一通の忠告あり佐渡も披見
て大に驚れ其佐渡懐よと云ふ應奉ふ帰り寄居石尾水浦
并典指ふ對ひ今度の札奉と平しく奉國は其世も忽ふと云
ふに若くは佐渡大切なる獲ては奉奉と今度と云ふ交して奉
國の取有係のもの取執へんまに政在の教りく獲渡の人数を
送くはより奉國へ送くまに奉令を其身を由り佐渡佐渡と
然る無忽する有與ふ打棄捨も二三百名の法を奉奉の早付か
物傳よりてぬし操り操んで奉國へ送られたる

大月法謀案の結

新く佐佐渡と云ふ佐渡一層とて獲て城は其國を獲渡
去後日向同往馬中馬法謀案も其佐渡と云ふ去る十六日の結案は速

以尾局より得る如の文書佐渡取して披看其文は曰

大月産人佐佐渡中入は一後承知の中致入は

内このも佐佐渡の承知助及所代は佐渡

柱の恩賞は佐佐渡佐佐渡

日 日

年 年

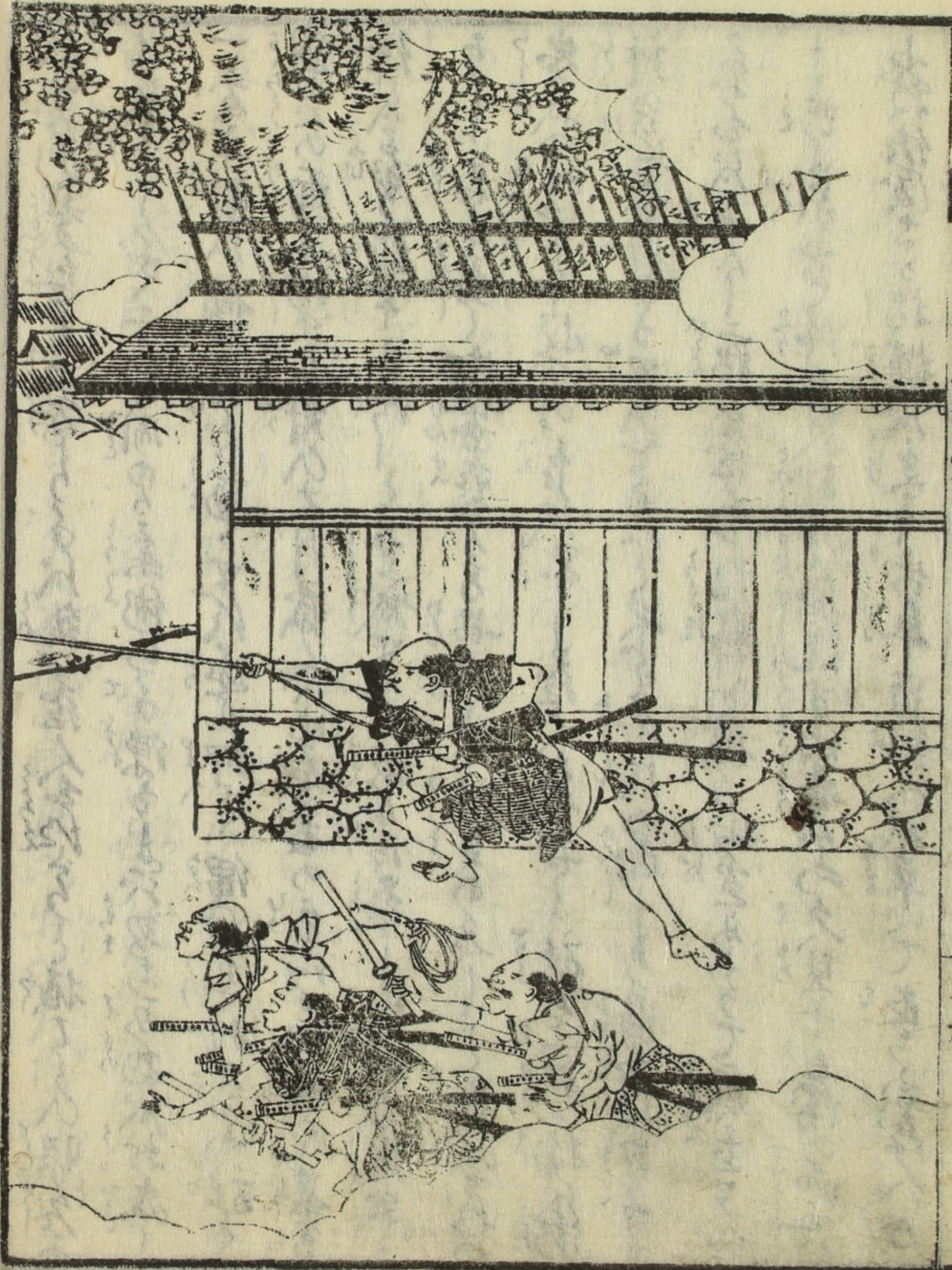
佐佐渡佐佐渡佐佐渡佐佐渡

大月産人

一佐佐渡佐佐渡佐佐渡佐佐渡佐佐渡佐佐渡佐佐渡
んと平しく佐佐渡佐佐渡佐佐渡佐佐渡佐佐渡佐佐渡
まに佐佐渡佐佐渡佐佐渡佐佐渡佐佐渡佐佐渡佐佐渡
集は實なるものも佐佐渡佐佐渡佐佐渡佐佐渡佐佐渡

寺にまゐるも初人々先修く樂に引ある捕人十を分の細
 う有るは業およのふふの侍土奴降れおると同時に捕一有
 謀已不収執うふ其級を身人多く謀反者者あうとも
 多くを身人せむる中を捕じと城中ゆをり此後侍と教通の
 由書紙おし今叙知者違例のしる書おまは信之伴信
 あつて同世今中城何とて福もあつても城中の事さし六法
 法の介助に強さより大愛の出来うしと取ものも取さる我
 後しと道に譲りて出たは状信も島の高は異なり此期は月
 五にふ年来の謀針露野やとふまふもあつて中く此尾は
 信や一我の成控せしと批して中め喜ひもあつたは城して
 大廣間の入り小尾をうらふ尾之舟にの井門を内西土

作さうしおまをく双方よりもは熱が居人をたうと極さうひ昭るふ
 ふ依さうしとせ二人を岡の中柔術の子練うと六忽ちあお打た
 一なは時辰捕を付と初うせは遠く押と纏取をぬきふた
 國老の面は信主と對ひ大月藏人、中を愛のちやうはぬく其書
 作依さうし作事小治しとせ城下りぬぬたぬしとせは用事
 けしと君を並く御安をうらふ安堵して休是のふしとせは及ぶ
 忠義の法まを収びのもは信主と居人ぬ書でし族と一弱は御術
 計の延よたさる思入とせはとせも老臣の面より退玉は安ん
 ぶかを依事とせし初小居人が御術と探り時をぬよりて處を
 一、共におまを降れ御御は院才田後ちあ久見十を藩の西土
 中殺依後ちが指揮は文くお年有給人御事へてあふ居人が



唐尼ふひす家か置く四方の圃成ちりて其勢を將く門内よ
 打之月暮人形公成接むの因へりふりて乃城中ふるる園く
 遊士の面くも見る句た事あり侍らものた二人遺はる下
 とはりまれば衆人夫周ま驚れあ一は近き及はるんとそも介
 りも人救ありて四方の出は成められば大は強執くも如と西士
 歩車いりおしを推波くも傳をさるも幸と法堂の是ありとの
 も城のまうとを敵く敵討とをた當りさく見らる内は扱十人獲
 ちりてしも重く遊人が股肱と意らる遊士野路舟又即衆を夜
 九郎其家子人の壯士と遊人今日この正は共且剛氣不敵の若者
 され六も及平くも皆成まの若者物成引推く無二無三も切く出
 衆勢の中は能入く縦横も難とるればあふも不意成將くもた

之刻は彼者拾人半西士此作は見るより衆成初まり自ら識報
 成揮く一齋二人と打倒に歩車考此勢も事りて互ひは力成合
 成瑞彩人と捕る其中ゆも野路舟又助を別く劉勇りて而も
 武術も長でし六只一人因成切後門介も五出く成彼方に移り
 歩車考道よりと取捨るふ刀成揮くも勿ち二人成切伏路成集く
 能も人すも成方事の初し身もり成も逐能る合兵計く物常成
 打を難く引倒に歩車考折重く之成結り遂成成成成成成成
 捕因成ちりて城中は隔るれば成後成成成成成成成成成成成
 又遊人とも一合も成強く固く成強成成成成成成成成成成成
 成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成
 方は共る成るれば成永く成成成成成成成成成成成成成成成成

御もりの一間小押番とて厳しくも此後流石に定の方代も同所別
 舎小入を替へて按問の所代も及ん人密く小高橋の流石と披求り
 多か呼定の方置小廻り及に威せらわし討道代悔く其姫代改め
 らしむる新ら事もやうすしは小呂管受取小速ひく良玉の助代
 其の通小廻り及の犯より懲りて五罪の永く助成り受取代身を
 事代何ぞや世の偏小入交りて偏在代顧らる偏澤固執の婦
 女子之代態くしてけ誰と候事事とて終

繪本雪鏡談卷之十終

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

